

2024年度全国大学病院輸血技師研究会

2024年 10月 17日（木） 15：00～17：00

ソニックシティ（小ホール）+ Web 開催

当番校

埼玉医科大学国際医療センター

目次

1. 会場までの交通アクセス	3
2. 会場案内.....	5
3. WEB での技師研究会への参加方法.....	6
4. 2024 年度全国大学病院輸血技師研究会《次第》	9
5. 2023 年度全国大学病院輸血技師研究会議事録.....	11
6. 全国大学病院輸血技師研究会 調査報告.....	14
7. 全国大学病院輸血技師研究会 施設紹介.....	19
8. 特別講演.....	20
9. 治験紹介.....	21
10. 全国大学病院輸血技師研究会役員名簿	22
11. 全国大学病院輸血技師研究会ブロック別施設一覧	24
12. 2023 年度全国大学病院輸血技師研究会出席者名簿.....	25
13. 平成 13 年度（2001 年度）以降の当番校リスト	27

会場までの交通アクセス

ソニックシティホール

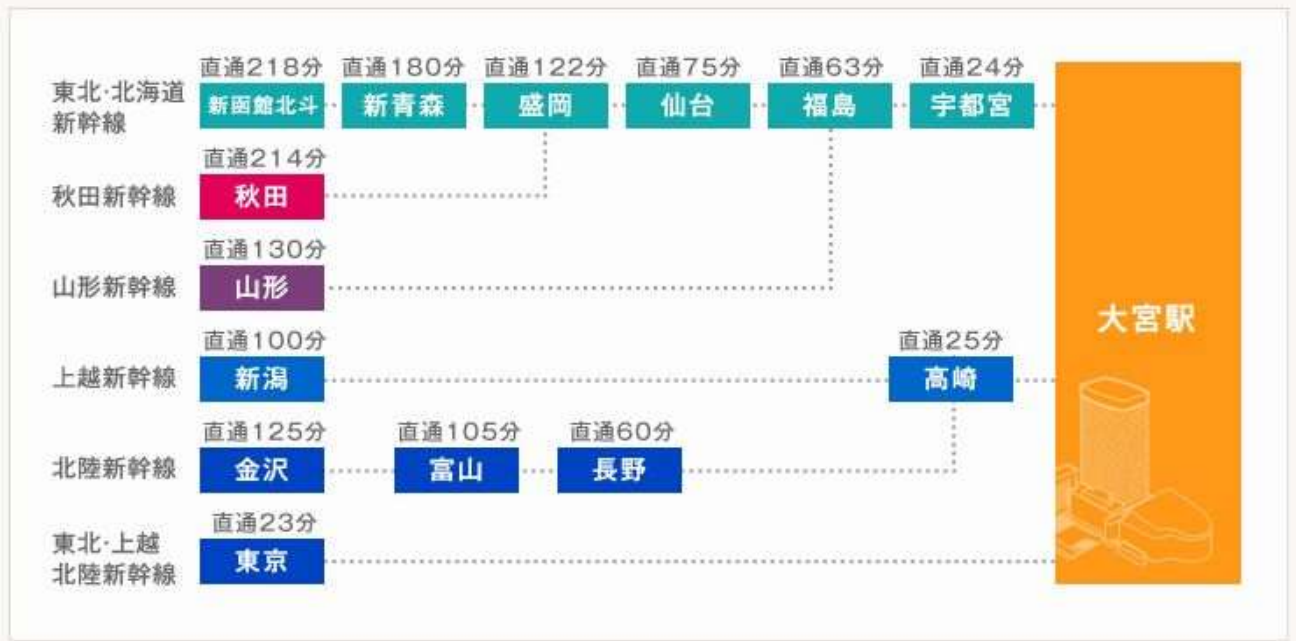
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5

TEL：048-647-4111

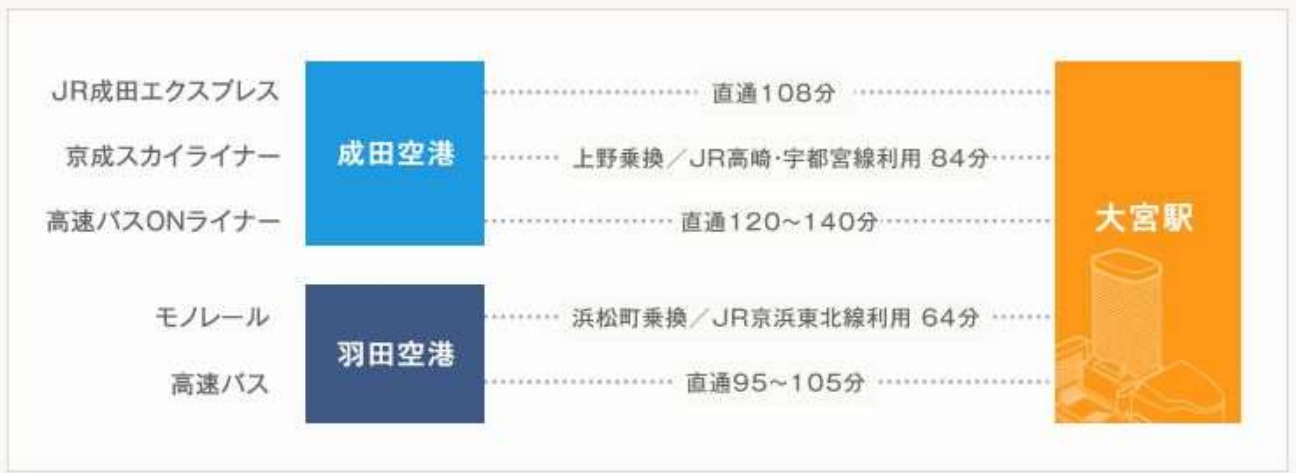
<https://www.sonic-city.or.jp/>



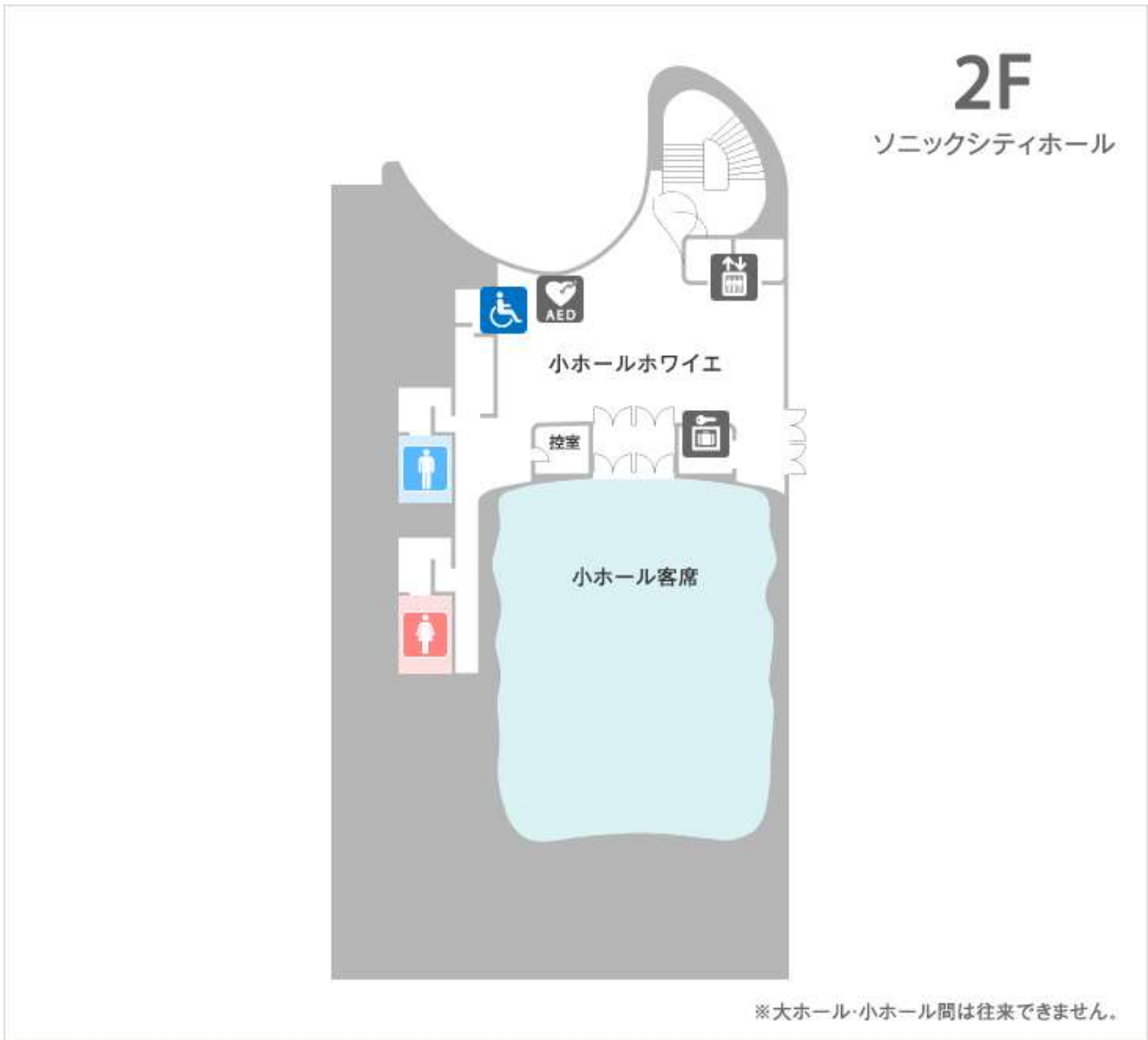
新幹線でお越しのお客様



飛行機でお越しのお客様



会場案内



男性用トイレ



女性用トイレ



多目的トイレ



エレベーター



AED



ロッカー室

WEB での技師研究会への参加方法

1. 技師研究会は、現地開催を予定していますが、併せて、Zoom ミーティングを用いたライブ配信をいたします。現地にお越しいただけない方には Zoom ミーティングを用いてライブ配信いたします。また、後述する「視聴者」と「発表者・投票者」の 2 タイプの参加方法に分かれます。同一の参加用 URL をご案内しますので、それぞれの参加方法について各 2 タイプの案内をご確認ください。開催中の投票は、あらかじめ施設内で決定した事務局に登録した 1 名の投票者は、必ず「発表者・投票者」として参加してください。
2. ☆各会議の Zoom 参加 URL は、本会議の 1 週間前にメールにて送付いたします。
URL が届かない場合は、事務局へご連絡ください：jstmct31@med-gakkai.org
※通信障害時の連絡先
○ 技師研究会 当日の緊急連絡先：080-6270-6475（10 月 17 日のみ利用可）
※通信障害以外の連絡は下記メール宛てにご連絡をお願いいたします。
yuketsu2024@saitama-med.ac.jp（2024 年度全国大学病院輸血部会議事務局）
3. 技師研究会前に、必ずミーティング用 Zoom クライアント最新版をインストールしてください。
(ア)Zoom 最新版であるか確認する方法 <https://ncdc.co.jp/columns/6612/>
(イ)最新版ダウンロードはこちらから <https://zoom.us/download>
※ 最新版でない場合、通信トラブルなどにより一部視聴困難になる場合があります。
※ Zoom の URL を、他の方に転送したり複数の PC やスマートフォン等からアクセスしたりすることのないようお願いいたします。
4. 会議への入室時間は本会議、技師研究会それぞれ開始時間の 20 分前からです。
大宮ソニックシティホール（小ホール） 技師研究会開始時間：10 月 17 日 15 時 00 分

視聴者へのご案内

1. 「視聴者」はマイクとビデオは**必ず**ミュートにしてください。視聴者は投票権を有しません。
あらかじめ事務局に登録され投票を行う方は、次章の「発表者・投票者」の項目へお進みください。
2. 入室方法
 - (ア)事務局から事前に送付される 2.☆の Zoom ミーティング URL (前述) にアクセスしてください。
 - (イ)ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
 - (ウ)画面中央にポップアップウィンドウが開きます。「コンピュータ オーディオに参加する」をクリックすると視聴が開始されます。視聴開始後に、**必ず**画面下の「ミュート」／「ビデオの停止」をオフ（赤斜線）状態にしてください。
 - (エ)画面上で右クリックし、「名前の変更」より「氏名（施設名）」をご入力ください。
（例：輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議））

発表者・投票者へのご案内

1. 発表者・投票者（施設代表者）
 - (ア)「発表者」は、マイクとビデオが使用できます。会議を視聴すること、「マイク」による質問ができます。
 - (イ) 1施設に1票の投票者を含みます。あらかじめ施設内で投票者1名を決定しておいてください。投票の際には、投票者のみが投票を行ってください。
2. 入室方法
 - (ア)事務局から事前に送付される 2.☆の Zoom ミーティング URL (前述) にアクセスして下さい。
 - (イ)ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
 - (ウ)画面中央にポップアップウィンドウが開きます。「コンピュータ オーディオに参加する」をクリックすると視聴が開始されます。視聴開始後に、**必ず**画面左下の「ミュート」／「ビデオの停止」をオフ（赤斜線）状態にしてください。
 - (エ)画面上で右クリックし、「名前の変更」より「★氏名（施設名）」と頭に★を付けてご入力ください。（例：★輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議））
 - (オ)ビデオは常時 ON（顔出し）をお願いします。

3. 参加環境

- (ア) 生活雑音のない静かな環境でご参加ください。
- (イ) LAN ケーブル接続を推奨します。Wi-Fi 接続は十分な強度を確認してください。
- (ウ) 一つの部屋で複数の PC から参加する場合、近くの他の参加者の PC のスピーカー音をマイクが拾うとハウリングが起きます。他の参加者にはイヤホンまたはヘッドセットを使用し音が漏れないようにしてもらってください。
- (エ) 稀なケースとは思いますが、ストリーミングサイト等から動画を受信しながら再配信すると、PC とネットワークの両負担となり、円滑な配信が困難になることがあります。LAN ケーブル接続した PC 内においた動画ファイルを再生し配信してください。また、非力な PC は避け高性能 PC を用いてください。

4. 発表・発言の場合

発表・発言時は、ミュートを解除し、「質問があります」とご発言ください。議長からの許諾後に、施設名と名前を名乗ってから発言してください。資料あるいはスライドを提示する際は、Zoom の画面共有機能を用いてください。発表・発言後は**必ず**ミュートにしてください。

2024 年度全国大学病院輸血技師研究会 《次第》

日時：2024 年 10 月 17 日（木）15：00 ～17：00 ソニックシティ（小ホール） + Zoom会議

開会の挨拶

(15：00～15：05)

- | | | |
|--------------|--------|-------|
| 1) 技師研究会代表挨拶 | 東京科学大学 | 大友 直樹 |
| 2) 当番校技師代表挨拶 | 埼玉医科大学 | 棚澤 敬志 |

1. 協議事項

(15：05～15：15)

- | | | |
|-------------------|------------|-------|
| 1) 2023年度議事録について | 庶務（熊本大学） | 福吉 葉子 |
| 2) 2024年度役員改選について | 代表（東京科学大学） | 大友 直樹 |
| 3) 事業報告・計画案 | 代表（東京科学大学） | 大友 直樹 |

2. 報告事項

(15：15～16：15)

- | | | |
|-------------------------------|----------|----------------------|
| 1) 凍結細胞バッグ破損や細胞処理等に関するアンケート調査 | 東海大学 | 杉本 達哉
15:15～15:25 |
| 2) 「輸血関連検査受託に関する」アンケート調査 | 奈良県立医科大学 | 大前 和人
15:25～15:35 |
| 3) 輸血受取から実施までの確認作業に関する実態調査 | 浜松医科大学 | 芝田 大樹
15:35～15:45 |
| 4) 「自己血輸血に関する業務状況」アンケート調査 | 産業医科大学 | 坂西 陽子
15:45～15:55 |
| 5) 業務量アンケート調査 | 札幌医科大学 | 村井 良精
15:55～16:15 |

3. 施設紹介

(16：15～16：25)

- | | |
|-------|-------|
| 北海道大学 | 櫻澤 貴代 |
|-------|-------|

4. 特別講演		(16 : 25~16 : 45)
「研究プロセスについて」		
	信州大学	小嶋 俊介
5. 治験紹介		(16 : 45~16 : 55)
「AZALEA治験についての紹介」		
	東邦大学	日高 陽子
6. その他周知事項		(16 : 55~17 : 00)
次期当番校の挨拶		
	東京科学大学	大友 直樹

2023 年度全国大学病院輸血部会議 技師研究会 議事録

日時：2023年10月25日（水）15：00～17：00 @長崎ブリックホール+ Zoom会議

作成：2023年度当番校 山田麻里江（佐賀大学）

出席：104大学 欠席：0大学（詳細は別紙）

記

1. 開会の挨拶

1) 技師研究会代表挨拶

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より開会の挨拶があった。

2) 当番校挨拶

佐賀大学 山田氏より挨拶があった。

恒例に従い、開催校の佐賀大学 山田氏が議長を務めた。

2. 協議事項

1) 2022年度技師研究会議事録について

出席大学より疑義等なく、2022年度技師研究会議事録として承認を得た。

2) 規約改定について

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より、附則の一部改定について説明された。役員の任期を4月から翌々年の3月までとし、この規約は改定日から適用することが承認された。

3) 役員改選について

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より、2)の承認により、現役員の任期は2024年3月までになることが説明された。副代表2名の退任により、副代表の渉外担当を名倉氏、副代表の学術担当を松浦氏、アンケート担当を村井氏が選任された。また、北海道・東北ブロック代表として山形大学の奈良崎氏、近畿ブロック代表として大阪大学の清川氏が選任され、以上5名の選任について承認された。

4) 会計報告について

会計担当役員 東京大学の名倉氏より、2022年度（令和4年度）は技師研究会の活動がなく、会計報告はない旨、説明された。

5) 事業報告・計画案について

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より、来年度の日本輸血・細胞治療学会学術総会で企画を計画中との説明があり、承認された。

3. 報告事項

1) 業務量アンケート調査報告

藤田医科大学 松浦氏より本会議前に業務量アンケートの結果について、資料に沿って詳細な報告がなされた。104施設が回答し、100%の回収率であった。全体の臨床検査技師数は806名で、認

定技師は343名、細胞治療認定管理師は256名。輸血関連情報カードの発行は38施設が行っており、発行していない施設の主な理由として業務多忙や人員不足があげられた。同種クリオプレシピテートの作製は半数の施設で行われており、コンピュータクロスマッチの実施率は全体の38%。不規則抗体算定状況では、D011は算定されにくく、K920は比較的算定されやすい傾向との報告がなされた。報告内容に修正がある場合は、申し出るように依頼がされた。また、本アンケート調査結果はパスワード付きのファイルとしてダウンロード可能とする（パスワードは、研究会会場にて公表）。

2) 「タスクシフト・シェアに関する業務」アンケート調査報告

東邦大学医療センター大森病院 奥田氏より、資料に沿って報告された。65施設の回答があり、成分採血や検査結果の説明、輸血同意書の取得など、施設によって実施状況は様々であった。実施していない施設では人員確保やニーズがないことが主な理由となっている。また、タスクシフト・シェアの促進に向けて地域医療体制確保加算や厚生労働省の通達があり、業務の効率化や技能の習得が今後期待される旨の報告がなされた。

3) 「輸血関連情報カードの運用状況」アンケート調査報告

筑波大学 新井氏より、資料に沿って報告された。回答施設は82施設であり、39%の施設が輸血関連情報カードを発行。カード受け取り後の運用が不明瞭で、情報の整合性や管理に課題がある。カードは抗体の検出や輸血準備に役立つが、情報の取込みや運用方法が施設間で一貫していない。また院内スタッフの認知度向上や、院内での取り決めの必要性についても報告がなされた。

4) 「Rh（その他の因子）血液型検査の実施と算定状況」アンケート調査報告

名古屋市立大学 南里氏より、資料に沿って報告された。アンケートに回答した76施設の全施設が、院内で患者血液型抗原検査を実施していた。約半数の施設がRh（その他の因子）血液型検査の保険請求を行っており、査定ありと回答した施設が3施設、返戻・査定なしが6施設であった。抗CD38抗体使用時のDTT処理効果確認は、ほとんどの施設で実施されている旨の報告がなされた。

5) 「患者ID等を用いて別患者との情報紐付けを行う機能」アンケート調査報告

東邦大学医療センター大森病院 齋藤氏より、資料に沿って報告された。回答施設は63施設。患者リンク機能は、輸血部門システム14%、病院情報システム46%で導入され、全体の8割以上の施設で必要との回答であった。また、母児間や移植患者間の紐付けによる情報共有について必要と回答した施設は約80%であり、正確な紐付け作業と安全な運用体制の構築が必要との報告がなされた。

4. 施設紹介

東京医科歯科大学 相川氏より自施設について紹介された。輸血細胞治療センターは、輸血部門と細胞治療部門に分かれ、教員、臨床検査技師、技術職員、事務員で構成されている。輸血検査

業務の他に、自己生体接着剤や同種クリオプレシピテートの調製も行われている。再生医療等製品関連業務では、キムリアのリンパ球採取、細胞処理、製品管理、テムセルの調製、ハートシートの細胞培養用血清分離、シート調製に臨床検査技師が携わっている。また細胞治療認定管理師や臨床培養士の育成も行われているとの報告がなされた。

5. メーカー講演

「血液粘弾性検査（装置の特徴及び各パラメータと輸血の関係）」をテーマに、3社より機器の原理、特徴等について講演された。ヘモネティクスジャパン合同会社 横田氏よりトロンボエラストグラフアナライザーTEG6s血液凝固分析装置について、アイ・エル・ジャパン株式会社 横山氏よりROTEMシグマについて、平和物産株式会社 室伏氏よりQuantra®血液粘弾性分析装置について、それぞれ説明された。

6. 周知事項

技師研究会代表 大友氏より、技師研究会メーリングリストの登録・削除の申請方法の変更について説明された。今後は、技師研究会のホームページ上に掲載している全国大学病院輸血技師研究会メーリングリスト登録（申込・削除）申請書を用いて、申請することが承認された。

7. 次期当番校の挨拶

次期当番校の埼玉医科大学国際医療センター 棚澤氏が挨拶を行った。

10月17日に、埼玉県さいたま市のソニックシティにて開催予定であることが告知された。

以上

報告事項 1.

凍結細胞バッグ破損や細胞処理等に関するアンケート調査

東海大学医学部附属病院 臨床検査技術科 輸血室

杉本 達哉

造血幹細胞移植は、血液や免疫系疾患に対する治療法として広く実施されている。造血幹細胞移植では造血幹細胞の採取、処理、保存、輸注の過程があり、各過程を適切に実施していくことが肝要である。また、免疫細胞療法では凍結された細胞加工製品を取り扱う。それらの取り扱い時に、予期せぬトラブルを経験することがあるが、可能な限りトラブルは回避したい事例である。そこで、大学病院群における凍結細胞バッグ破損や細胞処理等に関する調査し、その情報共有をすることで少しでもトラブル回避に役立てればと考え、アンケート調査を行った。

アンケート

全国大学輸血部会議の技師研究会所属 104 施設を対象に実施した。

Google Form を利用し、アンケートを実施した。

回答期間は 9 月 5 日から 9 月 19 日とした。

アンケート設問は 27 問で、解答率は 68 施設 (65.4%) であった。

アンケート結果

68 施設の回答で、造血幹細胞移植や免疫細胞療法を実施されている施設は 64 施設 (94.1%) であった。実施 64 施設で凍結バッグ破損経験は 20 施設 (31.3%) であり、凍結バッグ破損なしの回答 2 施設から解凍時の内容液漏れ回答があった。破損経験と解凍時の内容液漏れを合わせた 22 施設を細胞処理時のトラブル経験施設数とした。トラブル経験施設の回答から、解凍時の内容液漏れ (13 施設)、凍結細胞バッグ外観確認時に破損を発見 (7 施設) および操作アダプターやルート接続時のバッグ破損 (5 施設) で複数回答があった。末梢血幹細胞の凍結保存処理を主に実施している職種で最も多いのは臨床検査技師 (54 施設) が含まれる回答であり、解凍を主に実施している職種は医師 (39 施設)、臨床検査技師 (22 施設)、看護師 (2 施設) であった。臍帯血の解凍を主に実施している職種は医師 (42 施設)、臨床検査技師 (14 施設)、看護師 (1 施設) であった。

まとめ

細胞処理時のトラブルとして複数回答された内容は特に注意を要する事例と捉え、自施設での細胞処理時に留意し、トラブル回避の一助としていただければ幸いである。

別紙資料により報告いたします。

「輸血関連検査受託に関する」アンケート調査

奈良県立医科大学附属病院 輸血部

大前 和人

現在、厚生労働省科学研究班では、施設の輸血関連検査の技術レベルにおいて、実際に実施した検査結果で予期せぬ反応などを認めた時の検査結果の解釈や、使用している試薬の精度管理や管理方法に悩んだ際、その問題解決のため検査相談や検査受託ができる体制の構築を検討している。今回、輸血関連検査結果に関する相談や検査受託の受け入れ状況の把握のため、中核医療機関となり得る全国大学病院輸血部会議技師研究会所属施設を対象に、アンケートを実施した。

主となるアンケート内容は、“他施設からの輸血関連検査結果・輸血療法に関する相談の受託”と“他施設からの輸血検査依頼の受託”について、実施した。回答施設は、76 施設（大学病院輸血部会議参加施設：104 施設）であり、回答率は 73%であった。輸血関連検査結果や輸血療法に関する相談は可能と回答した施設は、58 施設（76%）であった。一方、他施設からの輸血検査依頼の受託が可能かの問いについては、現時点でも可能と回答した施設が 5 施設（6%）、将来的には可能と回答した施設は 43 施設（57%）であった。また、将来的に受け入れ可能となるための必要な体制・整備については、“責任の所在の明確化”や“施設の契約問題”などの事務的な内容のほか、人員整備や受託側でもその検査結果内容を施設間で相談できる体制整備に対する回答が多くあった。

今回のアンケートで明らかとなった輸血関連検査の受託に関する現状と問題点を参考に、今後の体制づくりに生かしたいと考える。

輸血受取から実施までの確認作業に関する実態調査

浜松医科大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部

芝田 大樹

【背景】

輸血療法の実施に関する指針では、輸血時の患者誤認を防止するため、輸血用血液製剤の受け渡し、輸血準備及び実施を行う際に患者氏名等を医療者2名で確認し、電子機器による患者照合を行うことが望ましいとされている。輸血機能評価認定制度(I&A)認定基準や安全な輸血療法ガイドにも輸血前の確認作業について記載されているが、いずれも具体的な方法や確認作業を担う職種等について明記されていない。このため、輸血用血液製剤の受け渡しから輸血実施までの確認作業について、施設毎に運用が異なることが予想される。輸血実施までの確認作業の現状を把握し共有することで、業務の適正化と標準化に寄与する資料とするためアンケート調査を実施した。

【方法】

アンケートはGoogle Formで作成した。対象は全国大学病院輸血部会議技師研究会の参加施設とし、期間は2024年9月4日から17日で実施した。アンケート内容は、輸血受け渡し、病棟等における輸血準備時、輸血実施時の各タイミングにおける確認作業実施の有無、担当職種、使用物品、確認項目等とした。

【結果】

71施設から回答が得られた。製剤の受け渡し場所は輸血部門（製剤払い出し部門）が55施設（77%）で最も多かった。受け渡し時の確認作業は69施設（97%）で実施しており、担当職種は検査技師と医療従事者が39施設（55%）で最も多かった。輸血準備時の確認作業は68施設（96%）で実施しており、担当職種は看護師と看護師または医師の組み合わせが30施設（42%）と最も多かった。輸血実施時の確認作業は全ての施設で実施しており、担当職種は看護師と看護師または医師の組み合わせが29施設（41%）と最も多かった。

【まとめ】

確認作業における確認内容や、それを担当する職種も施設によって様々であることが明らかとなった。施設規模や人員等、施設毎に輸血業務を行う条件が大きく異なるため、輸血業務、ひいてはその確認作業の標準化は難しいと考えられる。しかしながら本調査結果が、各施設における輸血実施手順の安全かつ効率的な運用に繋がれば幸いである。

報告事項 4.

「自己血輸血に関する業務状況」アンケート調査

産業医科大学病院 臨床検査・輸血部 輸血療法科
坂西 陽子

【背景】

当検査室で生じた自己血貯血に対する疑問を基に、全国の輸血部門の臨床検査技師がどのように自己血輸血にかかわっているかを調査し、今後のタスク・シフト/シェアの参考になると考え、自己血輸血に関する業務状況のアンケート調査を行った。

【方法】

Googleフォームで作成したアンケートを全国大学輸血部会議技師研究会のMLで配布し、回答していただいた。

【結果】

81施設から回答をいただいた。

貯血式自己血は回答施設すべてで実施されていた。貯血式自己血に輸血部門が関与している主な業務は、①血液の払い出し、②血液の調整・保存、③採血バッグの準備の順であった。そのうち輸血部門で自己血の処理および調整を行っている施設は約57%で、最も多かったものが遠心分離（赤血球+FFP保存）、次いで自己フィブリン糊作成であった。貯血時の穿刺は診療科医師、輸血部門医師が行っている施設が多く、学会認定・自己血輸血看護師と学会認定・自己血輸血看護師以外の看護師との差はほとんど見られなかった。貯血に使用するバッグは直針または翼状針付き採血バッグ:59%、採血針なしバッグ+採血針:27%、採血針付きのバッグと採血針なしのバッグの併用:14%だった。白血球除去フィルターは約90%の施設が使用していなかった。

回収式自己血は91%の施設で実施されていたが、そのうち77%の施設で輸血部門は関与していなかった。有効期限についても約66%の施設で関与していないのでわからないという回答であった。

希釈式自己血輸血は69%の施設で実施されていた。輸血部門が関与していない施設はこのうちの約43%で、約40%の施設では自己血採血バッグの準備やラベル出力で関与していた。

【結語】

当院では自己血業務の見直しをする機会が少なく安全性の向上のために自己血輸血全般と輸血部門のかかわりを調査した。貯血式自己血においては輸血部門の関与は必要不可欠であった。手術の現場に臨床検査技師が入ることが少ないためか、回収式、希釈式自己血輸血の業務には輸血部門が関与していない施設が多かった。今後のタスク・シフト/シェアにおいて、自己血輸血全般と輸血部門とのかかわり方を模索していく上での参考にしたい。

報告事項 5.

輸血業務量アンケート集計報告

札幌医科大学附属病院 検査部

村井 良精

別紙資料により報告致します。

施設紹介

北海道大学病院 検査・輸血部

櫻澤 貴代

北海道大学病院は病床数925床の三次救急医療体制で、北海道の中心となる医療機関としての役割を担っている。手術件数は8758件（2022年度）、輸血使用量（2023年度）は赤血球製剤12,716単位、血漿製剤7,655単位、血小板製剤36,020単位、アルブミン製剤77,286gである。施設認定としてはISO15189、I&A、認定組織適合性検査施設を取得している。

輸血検査室は技師5名とクラークが2名（交代制）在籍しており、技師5名のうち認定輸血検査技師3名、細胞治療認定管理師2名、認定HLA検査技術者1名取得している。

輸血検査室の業務は主に輸血検査、血液製剤管理、HLA検査、細胞治療の4つである。

輸血検査機器はORTHO VISIONを導入しており、血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験、抗A,抗B抗体価は自動機器にて実施している。また、2021年9月よりコンピュータクロスマッチを導入し、交差適合試験の9割以上はコンピュータクロスマッチで対応している

HLA検査は主に臓器移植や造血幹細胞移植関連のHLAタイピング、HLA抗体検査、リンパ球クロスマッチを行っている。近年、HLA不適合造血幹細胞移植が増加していることや、臓器移植患者におけるHLA抗体検査の保険適応に伴ってHLA抗体検査の件数が増加しており、HLA検査従事者の教育が急務となっている。

細胞治療業務では、造血幹細胞採取・保存、CAR-T療法のリンパ球採取・発送、テムセル®の調製を行っている。造血幹細胞採取は自家、同種合わせて年間約40件実施している。CAR-T療法はキムリア®、アベクマ®、ブレヤンジ®、イエスカルタ®に対応しており、その他治験CAR-Tを含めて年間約40件のCAR-Tリンパ球採取を行っている。細胞採取は医師、看護師、検査技師の3名体制で行っており、技師は主に成分採血装置のオペレーターを担っている。細胞保存は院内の臨床研究開発センターのCPC部門に出向き、CPCスタッフと共同で保存業務を行っている。

今後、CAR-T療法のさらなる適応増加や肺移植、膵島移植が当院で導入されることから、輸血検査室の役割はさらに広がっていくため、限られた人員で効率よく業務遂行していくことが求められる。

研究プロセスについて

信州大学医学部附属病院 輸血部

小嶋 俊介

大学病院は教育・研究・診療を基本的な機能の柱として、次世代を担う医療人の育成、高度で専門的な医療の開発ならびに提供、地域医療への貢献などに資することを求められている。このことは医師だけに限らず、我々、臨床検査技師を含める全ての医療人に求められることであり、大学病院で勤務する上での責務の一つといえる。しかし、昨今の医師の働き方改革に伴うタスク・シフト／シェアの推進により、この三本柱における診療の占める割合が多くなり、研究に充てる時間や労力へ大きな皺寄せが来つつある状況といえる。

当院は、2024年9月現在、輸血部、臨床検査部、先端細胞治療センターの3部署において、67名の臨床検査技師が在籍している。臨床検査部は5つの検査室から構成されているため7部門に分かれて検査業務を遂行しているが、研究活動に関しては部門の垣根を超えたテーマで取り組んでいる。研究活動における課題の一つとして、研究テーマや進め方の決定が挙げられる。このような課題を解決するために、当院では研究推進係を設けており、テーマが決まらず困惑している職員と人手が足りずに困っている研究責任者のマッチングをはじめ、研究活動がスムーズに遂行できるためのサポートを行っている。また、研究費獲得に向けたセミナーのお知らせや過去の研究費獲得者による講演などを企画することで効率的な研究活動の推進を行っている。さらに、臨床検査部は本学医学部医学科における病態解析診断学教室を基盤としており、博士号や修士号の学位取得といった具体的な目標を掲げることで、研究活動に対するモチベーションの向上を期待している。本講演では、当院の研究活動の一部を紹介させていただく。

AZALEA 治験についての紹介

東邦大学医療センター大森病院 輸血部

日高 陽子

AZALEA治験は、重度の胎児新生児溶血性疾患（HDFN）リスクのある妊婦を対象としたニポカリマブの有効性を評価する治験である。

HDFNは、母体血液中から胎盤を介してIgGが胎児へ移行することによって発症する。その機序は、IgGがFc受容体（FcRn）付近に誘導され酸性化環境下でFc受容体と結合し胎盤内へ取り込まれる。FcRn-IgG複合体は、エンドソーム（小胞体）から細胞表面に輸送され、中性に近い環境でIgGが分離され胎児循環系に入流する。FcRnに結合していないIgGはリソソームで処理される。

ニポカリマブは、FcRnと結合しIgGの結合を阻害する。結合が阻害されることで、IgGは輸送されず胎児循環系に入流することなくリソソームで処理されるためHDFNの予防になる。

本治験の対象を以下に示す。

- ・HDFNによる胎児貧血が認められたまたはHDFNにより胎児輸血を1回以上施行、
- ・HDFNによる胎児死亡または新生児死亡
- ・保有抗体の種類は、抗D、抗Kell、抗c、抗E、抗C（抗Kell×4<、その他×16<）

発表では、海外で行われた第II相の結果とニポカリマブの安全性、輸血検査の干渉を報告する。

今後、本治療薬が上市される可能性を考慮し技師研究会にて情報を共有する。

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2024 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直樹	東京医科歯科大学
副代表(渉外)	名倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松浦 秀哲	藤田医科大学
庶務	福吉 葉子	熊本大学
渉外	池本 純子	兵庫医科大学
アンケート担当	村井 良精	札幌医科大学
私立大学担当	嘉成 孝志	東京医科大学
(会計)	名倉 豊	東京大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小嶋 俊介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉本 達哉	東海大学
東京ブロック	鳥海 綾子	慶應義塾大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清川 知子	大阪大学
中国四国ブロック	土居 靖和	愛媛大学
九州ブロック	福吉 葉子	熊本大学
2024 年度当番校	棚澤 敬志	埼玉医科大学
(相談役)	山田 尚友	佐賀大学

2023.10.25

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2025 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直樹	東京科学大学
副代表(渉外)	名倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松浦 秀哲	藤田医科大学
庶務	福吉 葉子	熊本大学
渉外	池本 純子	兵庫医科大学
業務量調査担当	村井 良精	札幌医科大学
私立大学担当	嘉成 孝志	東京医科大学
(会計)	名倉 豊	東京大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小嶋 俊介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉本 達哉	東海大学
東京ブロック	鳥海 綾子	慶應義塾大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清川 知子	大阪大学
中国四国ブロック	土居 靖和	愛媛大学
九州ブロック	福吉 葉子	熊本大学
2025 年度当番校	相川 佳子	東京科学大学
(相談役)	山田 尚友	佐賀大学

2024.10.17

全国大学病院輸血技師研究会 ブロック別施設一覧

2024年10月17日 現在

<p><u>北海道・東北ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北海道大学病院 2 旭川医科大学病院 3 弘前大学医学部附属病院 4 東北大学病院 5 秋田大学医学部附属病院 6 <u>山形大学医学部附属病院</u> 7 札幌医科大学附属病院 8 福島県立医科大学附属病院 9 岩手医科大学附属病院 10 東北医科薬科大学病院 11 福島県立医科大学会津医療センター 	<p><u>北関東信越ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 筑波大学附属病院 2 群馬大学医学部附属病院 3 新潟大学医歯学総合病院 4 <u>信州大学医学部附属病院</u> 5 防衛医科大学校病院 6 自治医科大学附属病院 7 自治医科大学附属さいたま医療センター 8 獨協医科大学病院 9 埼玉医科大学病院 10 埼玉医科大学総合医療センター 11 埼玉医科大学国際医療センター 12 東京医科大学茨城医療センター 13 獨協医科大学埼玉医療センター 	<p><u>南関東山梨ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 千葉大学医学部附属病院 2 山梨大学医学部附属病院 3 横浜市立大学附属病院 4 北里大学病院 5 昭和大学藤が丘病院 6 帝京大学ちば総合医療センター 7 <u>東海大学医学部附属病院</u> 8 東京女子医科大学八千代医療センター 9 聖マリアンナ医科大学病院 10 横浜市立大学附属市民総合医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属柏病院 12 東邦大学医療センター佐倉病院 13 順天堂大学医学部附属浦安病院 14 昭和大学横浜市北部病院 15 帝京大学医学部附属溝口病院
<p><u>東京ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 東京大学医学部附属病院 2 東京大学医科学研究所附属病院 3 東京科学大学病院 4 杏林大学医学部附属病院 5 <u>慶應義塾大学病院</u> 6 順天堂大学医学部附属順天堂医院 7 昭和大学病院 8 帝京大学医学部附属病院 9 東京医科大学病院 10 東京医科大学八王子医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属病院 12 東京女子医科大学病院 13 東邦大学医療センター大森病院 14 東邦大学医療センター大橋病院 15 日本医科大学付属病院 16 日本大学医学部附属板橋病院 17 順天堂大学医学部附属練馬病院 18 東海大学医学部付属八王子病院 	<p><u>東海・北陸ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 金沢大学附属病院 2 岐阜大学医学部附属病院 3 名古屋大学医学部附属病院 4 三重大学医学部附属病院 5 浜松医科大学医学部附属病院 6 富山大学附属病院 7 <u>福井大学医学部附属病院</u> 8 名古屋市立大学病院 9 金沢医科大学病院 10 愛知医科大学病院 11 藤田医科大学病院 12 順天堂大学医学部附属静岡病院 	<p><u>近畿ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都大学医学部附属病院 2 <u>大阪大学医学部附属病院</u> 3 神戸大学医学部附属病院 4 滋賀医科大学医学部附属病院 5 京都府立医科大学附属病院 6 大阪公立大学医学部附属病院 7 奈良県立医科大学附属病院 8 和歌山県立医科大学附属病院 9 大阪医科薬科大学病院 10 関西医科大学附属病院 11 関西医科大学総合医療センター 12 近畿大学病院 13 兵庫医科大学病院
<p><u>中国四国ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鳥取大学医学部附属病院 2 岡山大学病院 3 広島大学病院 4 山口大学医学部附属病院 5 徳島大学病院 6 <u>愛媛大学医学部附属病院</u> 7 島根大学医学部附属病院 8 高知大学医学部附属病院 9 香川大学医学部附属病院 10 川崎医科大学附属病院 	<p><u>九州ブロック</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 九州大学病院 2 長崎大学病院 3 <u>熊本大学病院</u> 4 鹿児島大学病院 5 琉球大学病院 6 宮崎大学医学部附属病院 7 佐賀大学医学部附属病院 8 大分大学医学部附属病院 9 久留米大学病院 10 福岡大学病院 11 産業医科大学病院 	

太字下線：ブロック代表の在籍施設

2024年度 全国大学病院輸血技師研究会 出席者名簿

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師			
北海道大学病院	櫻澤 貴代	渡邊 千秋	佐々木 麻記	
旭川医科大学病院	佐渡 正敏	大塚 浩平		
弘前大学医学部附属病院	金子 なつき			
東北大学病院	関 修			
秋田大学医学部附属病院	佐藤 郁恵	奈良 美保 (医		
山形大学医学部附属病院	奈良崎 正俊	石山 裕子		
筑波大学附属病院	新井 裕介			
群馬大学医学部附属病院	石川 怜依奈			
千葉大学医学部附属病院	長谷川 浩子	尾坂 竜也	小橋 早紀	
東京大学医学部附属病院	名倉 豊	中島 一樹		
東京大学医科学研究所附属病院	尾上 和夫	高橋 敦子		
東京科学大学病院	大友 直樹	相川 佳子	大石 裕紀子	
新潟大学医歯学総合病院	上村 正巳			
金沢大学附属病院	佐藤 英洋			
山梨大学医学部附属病院	中嶋 ゆう子			
信州大学医学部附属病院	小嶋 俊介			
岐阜大学医学部附属病院	浅野 栄太			
名古屋大学医学部附属病院	渡邊 友美	加藤 千秋		
三重大学医学部附属病院	丸山 美津子			
京都大学医学部附属病院	丹羽 紀実			
大阪大学医学部附属病院	清川 知子			
神戸大学医学部附属病院	早川 郁代			
鳥取大学医学部附属病院	畑山 祐輝			
岡山大学病院	浅野 尚美			
広島大学病院	野間 慎尋	山岡 愛子		
山口大学医学部附属病院	渡邊 理香			
徳島大学病院	瀧本 朋美			
愛媛大学医学部附属病院	土居 靖和			
九州大学病院	藤野 恵子			
長崎大学病院	古賀 嘉人			
熊本大学病院	福吉 葉子	崎田 紫織		
鹿児島大学病院	餅原 愛			
琉球大学病院	又吉 拓			
浜松医科大学医学部附属病院	石塚 恵子	芝田 大樹		
滋賀医科大学医学部附属病院	内林 佐知子			
宮崎大学医学部附属病院	坂元 あい子	奥野 知世		
富山大学附属病院	富山 隆介	杉江 和茂		
島根大学医学部附属病院	兒玉 るみ			
高知大学医学部附属病院	藤原 晴美	徳弘 慎治	池田美和	
佐賀大学医学部附属病院	山田 麻里江	山田 尚友		
大分大学医学部附属病院	古賀 紳也	赤坂 理恵子		
福井大学医学部附属病院	海老田 ゆみえ			
香川大学医学部附属病院	田中 幸栄	内田 俊平(医		
防衛医科大学校病院	小森 幸子	木村 文彦(医		
札幌医科大学附属病院	村井 良精			
福島県立医科大学附属病院	小野 智	皆川 敬治		
横浜市立大学附属病院	原田 佐保	菅谷 文乃		
名古屋市立大学病院	南里 隆憲			
京都府立医科大学附属病院	井上 寛之			
大阪公立大学医学部附属病院	安保 浩二	川原 宏恵		
奈良県立医科大学附属病院	大前 和人	山口 直子		

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師)			
和歌山県立医科大学附属病院	堀端 容子			
岩手医科大学附属病院	高舘 潤子			
自治医科大学附属病院	大槻 郁子	小林 美佳		
自治医科大学附属さいたま医療センター	清水 咲子	岩崎 篤史		
獨協医科大学病院	山川 朋世			
埼玉医科大学病院	山田 攻			
埼玉医科大学総合医療センター	野呂 光恵			
埼玉医科大学国際医療センター	棚澤 敬志	松本 慎二	浅見 育子	
北里大学病院	岩切 文子			
杏林大学医学部附属病院	牧野 博			
慶應義塾大学病院	五十嵐 靖浩	鳥海 綾子	清水 翔太	
順天堂大学医学部附属順天堂医院	降田 喜昭	中村 裕樹		
昭和大学病院	中村 揚介	藤村 真理	島田 佳奈	
昭和大学藤が丘病院	十良澤 勝雄	小池 紗恵子		
帝京大学医学部附属病院	前島 理恵子	小島 美有季		
帝京大学ちば総合医療センター	山本 喜則			
東海大学医学部附属病院	杉本 達哉	吉川 千尋		
東京医科大学病院	市川 喜美子	万場 真乃介		
東京医科大学八王子医療センター	嘉成 孝志	関戸 啓子		
東京慈恵会医科大学附属病院	佐藤 智彦 (医)	影山 有美子		
東京女子医科大学病院	守屋 友美			
東京女子医科大学八千代医療センター	杉野 智広			
東邦大学医療センター大森病院	奥田 誠	日高 陽子	石橋 瑞樹	
東邦大学医療センター大橋病院	高橋 茂勝			
東京医科大学茨城医療センター	下野 真義			
日本医科大学付属病院	永田 則子			
聖マリアンナ医科大学病院	佐藤 恵利子			
金沢医科大学病院	香林 優佳			
愛知医科大学病院	片井 明子			
藤田医科大学病院	松浦 秀哲	荒川 章子		
大阪医科薬科大学病院	泉原 由美子	北畑 建太	志磨 美緒	
関西医科大学附属病院	阿部 操	山岡 学		
関西医科大学総合医療センター	吉川 美代子			
近畿大学病院	田中 宏和 (医)	前田 岳宏		
兵庫医科大学病院	池本 純子	村田 理恵		
川崎医科大学附属病院	仲井 富久江	文屋 涼子		
久留米大学病院	藤好 麻衣			
福岡大学病院	嶋田 裕史			
産業医科大学病院	坂西 陽子	南部 慎之亮		
日本大学医学部附属板橋病院	並木 浩信	檀野 裕子		
順天堂大学医学部附属練馬病院	市川 佳世子			
順天堂大学医学部附属静岡病院	猪口 明実			
横浜市立大学附属市民総合医療センター	深川 良子			
東京慈恵会医科大学附属柏病院	市井 直美			
東邦大学医療センター佐倉病院	蓮沼 秀和			
順天堂大学医学部附属浦安病院	多田 直記			
東北医科薬科大学病院	高橋 伸一郎 (医)			
昭和大学横浜市北部病院	佐々木 かよ子	下山 瑞貴		
福島県立医科大学会津医療センター	渡部 和也			
東海大学医学部附属八王子病院	倉島 志保	飯塚 淑貴		
帝京大学医学部附属溝口病院	鈴木 佑理			
獨協医科大学埼玉医療センター	鳥山 満			

平成13年（2001年度）以降 当番校リスト

回	開催年度	開催日	担当校
11	平成13年度	2001年9月28日	秋田大学
12	平成14年度	2002年11月22日	筑波大学
13	平成15年度	2003年11月21日	高知大学
14	平成16年度	2004年10月18日	琉球大学
15	平成17年度	2005年10月20日	福井大学
16	平成18年度	2006年10月2日	北海道大学、旭川大学
17	平成19年度	2007年10月4日	香川大学
18	平成20年度	2008年10月2日	大阪大学
19	平成21年度	2009年11月14日	浜松医科大学
20	平成22年度	2010年9月21日	熊本大学
21	平成23年度	2011年10月20日	自治医科大学
22	平成24年度	2012年11月15日	川崎医科大学
23	平成25年度	2013年10月20日	北海道大学
24	平成26年度	2014年10月17日	広島大学
25	平成27年度	2015年10月22日	信州大学
26	平成28年度	2016年10月6日	富山大学
27	平成29年度	2017年10月11日	大分大学
28	平成30年度	2018年10月18日	弘前大学
29	2019年度	2019年11月14日	東京女子医科大学
30	2020年度	2020年10月22日	三重大学
31	2021年度	2021年10月7日	名古屋大学
32	2022年度	2022年10月27日	東京大学医科学研究所
33	2023年度	2023年10月25日	佐賀大学
34	2024年度	2024年10月17日	埼玉医科大学

MEMO